

海外実習報告書

1143510M 植村 憲

ネパールの Kathmandu Medical College(KMC)にて 4/4 から 4/29 まで実習を行ってきた。KMC はカトマンズ大学に付属する medical colleges の一つで、その大学病院はネパール唯一の国際空港であるトリブバン国際空港のすぐ近くに位置し、病床数はおよそ 900 床の大型病院である。僕は内科、整形外科、救急、麻酔科、小児科の 5 つの科をそれぞれ 4 日程度回らせて頂いた。



内科

呼吸器内科に配属された。毎日の回診についていく実習スタイルだった。カンファレンスなどはなく、回診の時に患者一人あたり 10 分近く時間をかけてその場で治療方針などを決めていた。

設備としては血液検査、X 線、CT、MRI など一通り揃っており、気管支鏡も行っていた。

呼吸器内科とはいうものの、呼吸器疾患以外の入院患者もいて、疾患としては、COPD、ITP、SLE、誤嚥性肺炎、肝炎、気管支炎、肺がんなどを見た。ネパールでは薪で炊事をしていることが原因で、COPD の患者が非常に多かった。ネパールで最も多い疾患のひとつだそうだ。

外来見学では、若い先生が診察しながら英語で解説してくださり、2 人で議論しながら診察を進めた。

整形外科

外来見学と手術見学だった。外来患者はかなり多く、9 時から 15 時近くまでやっていた。様々な患者がやってきたが、最も多かったのは腰痛で次に骨折という印象を受けた。外傷は交通事故や転落での受傷が多いらしい。

外来は特に部屋が区切られておらず、診察している部屋に他の患者もたくさんいて、個人情報保護などの観点はあまりないように感じた。

手術は後十字靭帯の再建の他、ワイヤー固定、プレート固定、髄内釘など骨折手術が多かった。手術室の設備の差はあるものの、手術自体には日本と大きな差は感じなかった。整

形外科の先生はとても教育的な先生に指導して頂いたので、レントゲンの見方や身体診察、手術手技など勉強になった。

救急

病院の入り口すぐであり、多くの患者はウォークインで入ってきて、勝手にベッドに行き、医師がそれを診察するというスタイルだった。1日に50人程度来るらしい。バイタルを見て、簡単な診察を済ませるとすぐに他科に振り分けるので、詳しい診断などははっきりしないことも多かったが、初期対応は勉強になった。

外傷(主に交通事故)がかなり多く、COPDの急性増悪、食中毒も毎日数件は見た。面白いのは、まず患者が運ばれて来ると、軽く診察し、必要な薬を紙に書いて家族に渡し、すぐ横の薬局で買ってこさせる(注射器さえも!)。それを持ってきて初めて、治療が始まることだった。

麻酔科

回った診療科の中で日本との違いが一番小さかったように感じる。吸入麻酔がイソフルレンとハロタンであったこと、モニターの種類が少なかった程度であろうか。全身麻酔、脊髄麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロックなどを見学した。麻酔科もよく指導して下さり、麻酔導入や、緊急時の薬の使い方などを中心にとっても勉強になったし、初めてルートをとらせてもらったり、気管挿管の練習などもさせてもらった。

小児科

外来見学が中心で、その他、毎朝に症例問題を教授がレクチャーして下さった。症例問題はもともと難しい上に、早口だったので、難解であったが、いつもインターンの先生に助けて頂いた。さまざまな理由から診断に苦慮した、ネフローゼ症候群、心筋炎、バセドウ病などが紹介された。

外来はほとんどが発熱、下痢、腹痛で不衛生な環境によるものであった。(ちなみに日本人学生3人とも腹痛下痢になりました。)

全体として、ネパールでは家族の存在が非常に大きいようで、外来でも必ず家族が付き添いで来ていた。入院しても病院食などは出ないので、家族が食事を準備したり、身の回りの世話をしていた。その分、家族への病状説明などは日本よりもかなりしっかりしているように感じた。ネパールでは医療保険が高額なため、加入している人は少なく、医療費は全額自己負担であった。そのため貧しい人は満足な治療が受けられないらしい。実際、ネパールの平均月収が2万円程度であるのに対し、MRIが一回3万円は軽く払える額ではないだろうと思った。



休みの日と実習終了後はネパールの様々な場所に観光に行った。野生のサイやトラが生息するチトワン国立公園、湖がありヒマラヤ山脈がとても近いリゾート地ポカラ、日の出が綺麗なナガルコット、かつて3つの王国がそれぞれ存在し、遺跡の残るカトマンズ、パタン、バクタプールのダルバールスクエアなどなど。

ネパールは親日国で日本人とわかるとみんな嬉しそうにしていた。また、治安が非常に良く、殺人、強盗など以外のほかで、ローカルバスなども多く利用したがスリなどにも遭わず危険を感じる場面は皆無であった。

食事はダルバートタルカリと呼ばれるカレーが多く、他に餃子に似たモモ、焼きそばに似たチョウミン、汁そばのようなトゥクパをよく食べた。スパイスが効いた料理が多いので、辛い物が苦手な人は注意しよう。

1か月を通して、勉強も遊びも充実した実習を行うことが出来た。しかし、英語力の不足は痛感したので、これからは英語も勉強していこうと思う。

最後にこの実習を行うにあたり、お世話になった KMC 及び神戸大学の皆様に感謝致します。



現地の学生たちと